



元気で帰ってきてね！

－ヒラメの稚魚放流－

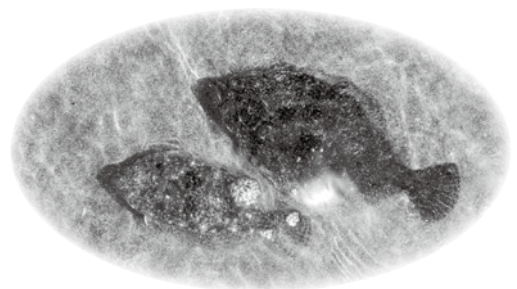
6月17日(金)、比井小学校(玉置雅巳校長)の5年生10人と志賀小学校(保田勉校長)の5年生27人が、産湯地区の海岸でヒラメの稚魚を放流しました。

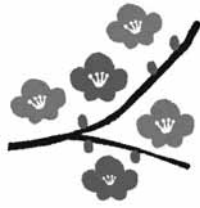
比井崎漁協の主催で行われたこの放流体験では、児童らはまず比井崎漁村センターで日高振興局職員から日高地方の漁業について説明を受けました。漁の種類や漁獲量について真剣に耳を傾け、和歌山県全体で漁獲量が減っていること、漁師さんたちが水産資源を守るためにいろいろな資源管理に取り組んでいることを勉強しました。

その後海岸に移動して、ヒラメの稚魚が入ったバケツを手に持ち、波打ち際で一列に並んで次々に稚魚を海に放流していきました。

少し早い海の冷たさに悲鳴を上げながらも、しっかりとヒラメを海に放してあげた児童らは、「ヒラメがかわいかったし楽しかった。元気にまた帰ってきてほしい」と言葉を弾ませていました。

この日放流した稚魚はおよそ5,000匹で、県栽培漁業センターで生まれたのち、比井崎漁協で8cm以上まで育てたもの。1年経つとおよそ30cmにまで育ち、刺し網漁業で漁獲されるそうです。





おいしいジュースになあれ —志賀小・梅ジュース作り—

6月16日(木)、志賀小学校(保田勉校長)で梅ジュース作り体験が実施され、2年生児童が梅ジュース作りに挑戦しました。

材料は梅と砂糖だけで、作り方は案外簡単。児童らはまず、つまようじを使ってヘタを除いたあと梅にたくさん穴を開け、果汁が出やすいように加工。大きなビンに梅と砂糖を交互に詰め込み、梅と砂糖を馴染ませたらできあがり。1日1回ビンをゆすってあげれば、3週間から1ヶ月ほどで美味しいジュースになるそうです。

この梅ジュース作りは生活科の授業の一環。児童らは「梅が良い匂いで楽しかった」と話し、完成したジュースをみんなで飲む日を楽しみにしていました。

また今回使った南高梅は県から提供してもらったもので、授業を通して、県の特産物を知識としてだけでなく、体験を通して知ってもらうことが狙いです。今後は同じく特産物のももを使った授業も実施されます。



みんなで役場を見学 —日高中・職場訪問学習—

7月4日(月)、日高中学校(釈野靖仁校長)の生徒8人が、職場訪問学習で日高町役場を見学しました。

毎年1年生が行っているこの学習では、日高町内の会社や日高広域消防本部、役場などを訪問し仕事について勉強しています。

役場を訪問した生徒たちは「どれくらいの人が入っているのか」、「どのような仕事をしているのか」といった仕事の内容から、「なぜ役場で働こうと思ったのか」などを職員に質問し、その後庁舎内を見学。実際に職員が働いている光景や、町議会が開かれている議場を写真に撮った後は、町長室で松本町長と対面しました。

松本町長に「勉強やスポーツにしっかりと取り組んで、将来は日高町のために働いて欲しい」という言葉を贈られ役場見学を終えた生徒たちは、「生まれ育った町のために働いている役場の人はすごいと思った。自分たちも真面目に勉強や部活を頑張り、将来は人のために働ける人になりたい」と意識を新たにしていました。

